

【事例報告】 ～音楽を愛する想いが街を繋ぐ～

北九州市民と学生ボランティア

アコルデ 事務局長 奥村和子氏
有中妙子氏、岩崎篤子氏、谷口波子氏、中村裕巳氏

奥村 「私たちは“アコルデ” <北九州の音楽文化を支える会> と申します。
今日はよろしくお願ひいたします。」

岩崎 「岩崎と申します。私はもう45年位いろんなグループで歌い続けていましたが、アコルデが立ち上げるということを知り、それでは入ってみようか、と思い今まで頑張ってきました。これからは、いつまで出来るかわかりませんが、頑張りますのでよろしくお願ひいたします。」

有中 「有中と申します。私はこの40年、ヤマハ音楽教室の講師をしています、もう10年位になりますが、ひょんなことから奥村さんにつかまりました。

「アコルデ」という名前はみんなで考え、後から付けたものですが、奥村さんと一緒に最初から立ち上げたメンバーの一人です。少し声が大きいので皆さん、びっくりされるかもしれませんが、根はやさしいですのでよろしくお願ひいたします。」

谷口 「谷口と申します。私はずぶの素人ですが、アコルデの広告をみて応募いたしました。今は楽しくてしょうがありません。よろしくお願ひいたします。」

中村 「私は中村と申します。私もヤマハ音楽教室の講師をしていました。退職はしましたが、その後は音楽ファンの方々を増やすべく、そのお手伝いが出来ればと思い参加させていただきました。まだ日は浅いですが、これから益々アコルデが発展し、活動が活発になっていくことを望んでいます。頑張りますのでよろしくお願ひいたします。」

奥村 「先ほどの中村さんの言葉に付け加えさせていただきます。この度、8月か9月の国際ブラームスコンクールで息子さんの中村大地くんが優勝されました。世界的なコンクールです。新聞紙上でもテレビでも放映されまして、私たちも大喜びです。

本日の私たちのテーマは“～音楽を愛する想いが街を繋ぐ～北九州市民と学生ボランティア”ということです。

この“音楽を愛する想いが街を繋ぐ”というのは、アコルデが出来た当初、大学生の方が考えた言葉です。その後は私たちも気に入って、いろいろな所で使っています。

今、力を入れようとしている“SNS 広報”、若い方、特に学生さんによる広報についてのお話をいたしますが、先日、北九州市立大学に協力を依頼しました。すると3人の学生さんが手を挙げてくださいました。今日も参加したいとの意向でしたが、丁度この時期は大学祭の期間中で参加できないそうです。そこで“LINE で頑張る”とエールがありましたので、ご紹介しておきます。

北九州市立大学には地域創生学部があり、地域に入って活動し勉強をする学部です。さらに関係する機関として、北九州市立大学地域共生教育センター（通称421Lab）があります。3人の学生さんのお名前は、佐藤 樹さん、出雲有紗さん、辻 杏さんで、既に今回一枚のパワーポイント作っていただきました。

私たち“アコルデ”は、クラシック音楽を中心にしたコンサートを支える団体です。活動内容をご紹介しますと、受付もぎり、会場係、ステージでの影アナ、チケット販売などを行っています。開演の2～3時間前ぐらいに集合し、諸々の準備をして開演、終演後の後片付けなどの活動を行っています。

次に、私たちアコルデの「ボランティア精神」について述べますと、アコルデ代表の弁護士の清原雅彦氏に作っていただきました。

第一に「ボランティアは愉しむこと」です。

仲間との人間関係、無報酬と言う現実的な利益はないものの、楽しみながら精神的な満足を求めて行うこと。行動そのものが、与えながら与えられる関係であること。なかなか難しいですが、そういうことを言ってくださいました。

二番目に「信念をもつこと」です。中途半端な気持ちではやらないで信念をもってやりましょう、ということです。これもまた深く難しいことです。

三番目に「自分の生活が確立していること」です。最も難しいことだと思います。

基本的には、清原先生が何時も言われていますが、ボランティアは愉しまなければ意味がないという原点に、ご自分は立ち返っているそうです。「愉しんでやりなさい」と何時も言ってくださいます。

「北九州市での音楽ボランティアの始まり」は、北九州国際音楽祭がきっかけで、1988年に始まりました。その数年後に、今日のテーマにありますように、「若い方には是非声掛けを」ということで北九州市立大学（略して北九大）の「ピアノ会」に入っている学生さんを紹介していただきました。交流としましては、ピアノ会の発表会が年に2回あり、その際にお花やお菓子を持って交流しています。

他にも、九州工業大学、九州国際大学、西南女学院大学、東筑紫短期大学、九州女子大学の学生や、“アコルデの募集チラシを見た”と言って、専門学校の学生さんも見えました。アコルデでは自前の募集チラシを作っており、大学の学生課の廊下に貼らせていただいたり、コンサートへの挟み込みや市民センターなどに置かせていただいています。

最も応募の多いのは、オペラの「アイダ」とか、「蝶々夫人」等の大きなコンサートです。このコンサートでは、1日に40人のメンバーを必要とし、2日間続けての開催では、80人以上のスタッフで表回りをします。当然、学生さんに参加していただき、大ホールの1階から3階までの座席案内をお願いします。1階から3階までのホール内を、学生さんがフットワークよく、トントンと上ったり下りたりしていただき、とても感じよく、非常に助かっています。学生さん自身も会場係をしながら音楽を耳にすることができ、良かった・嬉しかった・楽しかった、と印象を語られます。

あともう一つの交流として、準備ができれば開場前にお弁当を食べる時間がありますが、そんな時にご飯を食べながら、どういう学部で在籍とか、将来どういう仕事につきたいのか、と面白く、楽しく、話を弾ませながらお喋りをしています。

そして開場から開演にスタンバイすることになります。

「これからの活動の展望」ですが、アコルデには清原代表が作られた規約があります。

「北九州のクラシック音楽を中心とした音楽祭を支援し、それを通じてクラシック音楽を中心とした音楽文化を普及させ、市民文化の発展に寄与する」というものです。

これは非常に尊いもので、大事にしています。

その規約のもとに、アコルデは6年目を迎えています。

北九州国際音楽祭は、今年30回目を迎えますが、その音楽祭の今までのチラシを後方に置いております。

個人的なことを申しますと、その1回目の音楽祭の1年前に、ボランティアの募集がありました。小さな新聞記事でしたが、私は喜んで入りました。当時は滞在型の音楽祭でしたので、一週間とか10日間とか、海外の演奏家が滞在していましたので、ボランティアは大活躍です。演奏家は家族同伴で見えますので、市内の案内を英語ができるボランティアの方をお願いしたり、あとは毎日のホテル生活も大変だろうと、果物を用意したり、コーヒーを淹れたりとかのボランティアもありました。

北九州国際音楽祭もいろいろと時代の流れにそって変化してきましたが、ボランティアの在り方も、音楽を楽しみながら変わってきました。

現在のアコルデは、“主催者と共に” やっていく、やらせていただくというところです。単にドアの開閉だけではなく、主催者がどういう思いでこのコンサートを主催しているか、演奏家が何をもってこのコンサートの曲目を決めたかなど、作曲家それから演奏形態等々を月1回のアコルデ例会で話し合い、皆さんで分かち合いながらやっています。

このような主催者や演奏家とのやり取りの中で、新たな人と人との繋がりが出来、良い思い出ができます。いろんなことを学ぶとともに、それが心に残っております。

最近の想いとして、「音楽ボランティアを次世代にどう伝えるべきか」ということが何時も念頭にあります。どのようにバトンタッチをしたらいいか、後を継いでもらうべきかを、皆で話し合っています。

先日、北九大を訪ねて3人の方をお願いした時のことですが、「音楽コンサートのチラシは最近見たことがない」と言われ、ビックリしました。全部スマートフォンで情報を得ていると。「エー、それで本当にコンサートに興味があるのかな？」と思いましたが、現実はそのようなのです。

そこで“SNSを用いた若者目線による広報活動”に思い至り、その話を3人の学生としましたが、3人とも音楽に関しては理解があり、現在1年生ですが立派な活動をされています。今回3人をお願いするつもりでしたが、「友人がもう一人参加したいと言っておりますが、いいでしょうか」というLINEがあり、もう嬉しいばかりで本当に「大歓迎です」と、答えております。このように学生さんが少しずつ増えていけばいいなと思っています。

今までのような、当日参加するだけのボランティアから一步踏み込んだ活動として、学生の特技を生かした活動をお願いしたいと考えています。そして若い世代にもっとクラシック音楽に触れてほしい、多くの世代に音楽ボランティアに関わってほしい、と思います。手段としてはSNS、ホームページでの情報発信を大いにやって欲しい、と願っています。

ちなみに私のスマートフォンにも、この“4 2 1 ラボ (4 2 1 Lab)”という項目はありますが、この“4 2 1 ラボ”とアコルデが LINE でつながって、いつも情報交換ができるようになっています。彼女たちの言を借りると、子供の頃にピアノやエレクトーンなどの音楽をしていた人や、音楽、芸術分野が好きな人へ、また地域で自分の特技分野を生かしたい人へ向けて情報を発信することは、いろんな地域創生そのもので、音楽だけでなく介護や子供支援とかの分野にも参加しているそうです。

このサポートメンバーは4人になりましたが、若い方に音楽の楽しさやすばらしさを伝えるお手伝いができるように頑張りたいと思います。

このように LINE とかスマートフォンを使うことで、学生と、より一歩近くなったと思いますし、これからはこういうものを使った広報・発信をしないといけないと感じ、北九大に限らず、これまで交流がありました九州工業大学、西南女学院大学、東筑紫短期大学にもこのような形で同じように発信していきたい、と思っています。この写真は、先ほどのオペラ「アイダ」公演のソレイユホールです。

『湧き上がる音楽祭北九州』という冊子がお手元にあるかと思いますが、北九州それから地元出身の若い演奏家を応援するというプロセスで謳っております。その中の広報ボランティアのコーナーは私たちが担当しています。

これは響ホールでの写真で、花束受付係、それから駐車場係です。

次に、2017年度のアコルデの活動「湧き上がる音楽祭一覧」です。

この黄色い部分が、23と24番ですが、23番は響ホール室内合奏団と、それから東京芸術大学の澤学長が直々に指揮棒を振られ、コラボの演奏会に大学生も参加しています。そして24番は「レクイエム in 北九州」です。これも北九大生3人が参加しています。SNSで大いに発信していただきたいと思っています。

こちらは、アコルデがお手伝いをしているなかで、街中でのコンサートです。

大なり小なり、いろいろと行っている状況です。個別と言いますか別々に行っているので繋がりがありません。

過去に、アコルデはいろんな主催者と話し合っていますので、「一緒にやりませんか」と言いましたら、アコルデ3周年の記念行事に6団体の方々が参加してくださいました。

プログラムの1部は、4団体が参加して、ギターやブラス、マンドリンオーケストラです。

最後にその4団体が合同演奏をされました。素晴らしい演奏でした。

2部は、北九州のオペラ（シティーオペラ）これは大きなオペラの団体です。それと先程言いました響ホール室内合奏団と合同で2部を受け持ってくださいました。

編曲やリハーサルを何回もして、立派なコンサートになりました。大勢の皆さんにきていただき大成功で、「やって良かったな」と思いました。この時にも学生さんに10人ほど来ていただき、大いに活躍していただきました。

これはアコルデ手作りのチラシです。必ず例会にきてもらって説明し、いろんなマニュアルをお話します。それから先ほどのアコルデ3周年の行事。この黄色い部分を学生さんが担当されました。駐車場係、受付もぎり、花束係、会場係、ステージも担当していただきました。

これは湧き上がる音楽祭ですね。若い方の演奏ですので、会場に若い方がどっと見えます。同じく北九州国際音楽祭市民企画委員会が主催の街角コンサート、マラソンコンサート。これには街中のいろんな方々が参加され、市民センターなどで合唱をやっている人たちや楽器を弾いている人たちが参加されます。今年度は、総勢3000人ほどの弾く人聴く人が集まり、市民も音楽を楽しみ、盛り上がったところです。

「今後のアコルデの予定」ですが先ほど言いました11月19日、学生さんもこれに参加されますが、この話をしましたら学生さんの目の色が変わりました。音楽と映像のコラボレーションで、世界初の演奏会です。芸大から澤学長が直々に見えて指導されたり、日本アニメーション界の第一人者、山村さんの登場です。どのようになるのか楽しみです。このような企画が若者を惹きつけているような気がします。

最後になりますが、12月3日に行われる「レクイエム」には、SNS 広報を担当してくださる佐藤さん達がボランティアとして参加をされます。このレクイエムは、今年も世界で、日本で、災害により多くの方が亡くなりましたが、その方々を送る鎮魂のコンサートです。学生さんも内容を聞いて、「これには参加したい」ということでした。それから、キャッキエラマンドリンオーケストラ演奏会があります。これにも学生さんが沢山関わっています。このコンサートが一番、若い方で一杯になります。最後に12月23日に若い人を応援する北九州国際音楽祭のコンサートがあります。これもたぶん会場は若い方で一杯になると思います。こういうことで私たちアコルデは、これから先 SNS を重点に置きながら、若い方と触れ合いながら大いに活動していきたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。